

Fontaine

発行日 2016年10月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

私が歩んできた道

箏曲家 琴アンサンブル プリマルーチェ代表 梶 寿美子



1947年に生まれた私は生まれながらの全盲でした。両親はささやかな飲食店を経営していました。父は召集されてビルマ戦線に送られ、死地をさまよった挙句帰還しましたが、その過酷な体験を語ることはありませんでした。

母は盲学校があるということを知り、私を連れてその扉をたたき、幼稚部の第1期生として入学しました。そこで初めて琴の音を耳にし、勧められるまま盲学校の先生や上級生に琴を習うようになりました。そして小学部2年の時、京都府立盲学校を訪れたヘレンケラー女史に花束を贈呈する役割を与えられました。この経験は、その後の私の生き方を大きく変えたと思います。

高等部の音楽科、更に専攻科へと進学する中で、目が見えないが故に「職業選択の自由がない」という現実と直面し、学習意欲を失いかけていました。その頃、卒業前1年足らずの期間でしたが、千秋次郎先生（後に大阪芸大教授）との出会いがありました。その先生が私にさりとおっしゃいました。「今の君の技量では、お琴で食べていくことはできないよ」と。

それで大学へ行くよう勧められたのですが、当時点字受験を認めている芸術系大学はありませんでした。が、盲学校の先生方にご助力いただき、できたばかりの大阪音楽大学短期大学部（箏曲専攻）に点字受験で入学することができました。

無事中学校教師の資格も得て、京都府教育委員会に、中学校教員（音楽科）採用試験の受験願書を持参しましたが、「黒板に字のかけない教師に自分の子供を習わせようと思う親はいない」と言われて願書を受け取ってもらえませんでした。「それでも」と何度も足を運び無理を言って点字受験を行ってもらいましたが、「採用はしない」

という条件つきでした。そんな受験は絶対嫌でしたが、運動をしてくださった盲学校の先生に「これから続いてくる視覚障害者のため、受けてくれ」と言われ、涙をこらえて受験しました。

盲学校に採用されたとはいえ、非常勤講師を勤めただけで、正規採用はされず、やむなく、まちの箏曲師匠として、母との生活を営みはじめました。高度成長期でもあり、一時は40名ほどの生徒をかかえるようになりました。

そこに辿り着くまで私は、健常者に負けまい、という気持ちでかなり無理をしたと思います。生徒をコンクールに出すため、随分厳しく当たりました。審査員長だった山田忠夫先生は審査員講評で私の生徒に対し「音楽をしているね」と言ってくさいましたが、私の神経は張りつめていました。そんな中で夫とめぐりあいました。

結婚後すぐに乳がん。そして母の認知症という試練を与えられましたが、夫は乳がん負けそうな私を励ますため、東京に新しくできた浜離宮朝日ホールでコンサートを企画してくれました。そこでピーコさんとのトークを演じることになり、彼から励まされ、私の演奏会は変わっていきました。さらに母が入居している施設への訪問演奏で、多くの物を学びました。茂山千之丞さんには随分教えていただきましたし、桂米朝師匠始め多くの方々共演を快く引き受けてくださいました。それとは別に、多くのボランティア演奏からも、私は社会派の琴弾きという自分の立ち位置を作ってきました。

現在熊本地震で被災された、視覚にハンディキャップのある方たちへの支援コンサートなどの活動も力を込めて続けております。

はく えん しょ いん
泊園書院最後の院主

藤澤 章次郎



泊園書院は文政8年（1825）に開かれ、大阪最大規模を誇った私塾です。幕末から昭和までの激動期に、政界・実業界・文芸などの分野に人材を輩出しました。

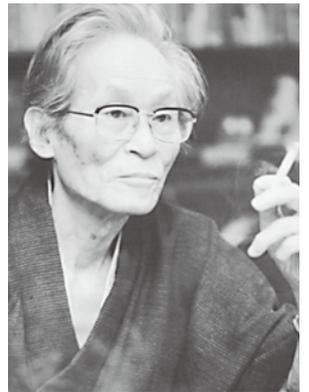
泊園書院を創設した藤澤東咳ふじさわとうがいは、同じ高松藩士であった岸和田藩校の教授相馬九方そうまきゅうほうとともに中山城山なかやまじょうざんに学んでいます。藤澤南岳ふじさわなんがくは東咳かいの長男で、父から泊園書院を継承し、門人は数千人に達し、隆盛を極めます。彼は、岸和田藩校教授の土屋弘つちやひろしの親友であり、大阪のシンボル「通天閣」や小豆島の「寒霞溪」の命名者として知られています。

南岳の次男、藤澤章次郎ふじさわしょうじろう【号：黄坡こうは】は明治9年に生れ、父に漢籍を学び、東京高等師範学校を卒業。帰阪して明治40年から44年（1907～1911）まで岸和田中学（現在の岸和田高校）に国漢学を講じます。『岸和田高等学校の第一世紀』には、在任中の逸話として、黒紋付きの羽織袴姿、上方落語のような名調子の授業であったと書かれています。伊藤博文が暗殺された際には岸中でも「弔哭式」が催され、校長の「弔詞」に続き章次郎による弔詞朗読があったことが記されています。

明治44年、同中学を辞し、泊園書院分院を開きますが父の南岳が亡くなり、兄の黄鵠こうこくが引退した後はここが本院となります。大正11年に関西大学予科講師に就任、その後、教授

となり、定年後も引き続き非常勤で教鞭を執ります。昭和23年11月に没し、泊園書院は幕を閉じます。

藤澤桓夫ふじさわたけお（1904-1989）は章次郎の長男。旧制大阪高校在学中、同人誌に発表した小説「首」が川端康成らに激賞され、東京帝国大学に進んでからは新人会で活躍します。大阪に戻り、『花粉』『新雪』などの評判作を書き、関西を代表する作家となります。



藤澤 桓夫

大阪を描き続けた作家であり、終生住吉に住み続け、織田作之助、司馬遼太郎、田辺聖子はいずれも桓夫の薫陶を受けています。父が岸和田中学に勤務した期間を岸和田市で過ごしますが、この頃のことを振り返って『大阪自叙伝』で次のように述懐しています。『数え年で八歳の春まで岸和田で過ごしなが、岸和田時代のことを殆ど憶えていない。ただ残っているのは、瞬間的な場面の記憶である。例えば、若かった母と女中と三人で盆踊りを見に行った途中の夜道の暗さとか、ひととき私の家がひろい川べりに住んでいて、その川岸で女の人がよく洗濯を……。五十年を経て母と一緒に岸和田を訪れた際には「岸和田の町は、城址も新しくなり、人間は増え、町は発展して、すっかり姿を変えていたせいもあったが、私に幼時を思い出させる景物は何一つなかった。」問題の川だが、母が、「あんたの言う川って、これのことやろ。」と指し示したのは、幅が二メートルあるかないかの、文字通り見窄らしい溝川だった。』

写真の典拠：関西大学ホームページの泊園書院掲載分

小さなギャラリー「^{コペリト}COPERITO」

動物たちへの愛を込めて

理事 本郷 元子

市内別所町の岸和田聖書協会の山側に、緑に囲まれこじんまりしたとても気持ちの落ち着く小さなギャラリーがあります。

オーナーの井出光地子さんが仕事を退職してから開かれたギャラリーで、今年で5年目を迎えます。

「ギャラリーの名前はどんな意味ですか」

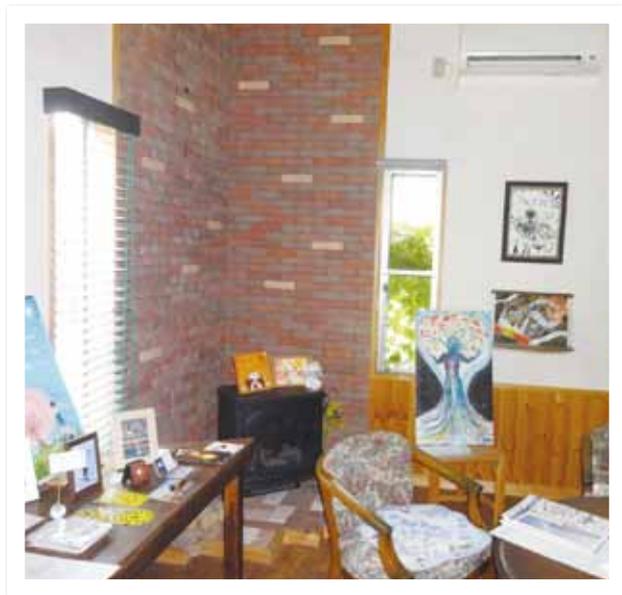
ギャラリーの名前“COPERITO”（コペリト）は、今は亡き看板犬たちの名前（コペ、コト）と、今もいる看板犬リトの3匹の名前を組み合わせました。

今いる看板犬3匹のうち、リトは繁殖場からの救出、マースケは保健所に連れて行かれる寸前の引き取り、ティノは遺棄された犬です。

「ギャラリーの運営はどのようにされていますか」

ほとんどコペリトの企画展で、アーティストの方々にスペースを提供して、個展や団体展などを開いています。場所代は不要で、作品が売れた場合に所定の金額をいただきます。売り上げの1部を動物愛護団体などへの寄付に当てることがもあります。日本レスキュー協会への募金箱は常に設置しております。

「地球の自然を守り、動物を愛護すること」を目的とした催しを1年に1度は開いています。今年は「～マップ～愛しい地球の子達」を10月1日から9日の間、開催しました。圧巻は、今年大阪市立美術館主宰の「0展」で大賞を取られ



たVickyさんの「サタオ」。国立公園にいた有名なゾウのサタオが象牙の密猟者に惨殺されたことを題材に「地球の自然と動物の命」について考えさせられる絵画でした。他にも沢山のアーティストさんたちの協力を得て、売上金から「飼い主のいないワンニャンへの寄付」もさせて頂いていただきました。

「展示の企画等大変でしょう」

誰にでも気軽に立ち寄って親しんでもらえるようにと動物愛護活動については、余り前面に出さないようにしていますが、フェイスブック上で、地球や動物愛護の観点からの友人が増え、同じ思いのアーティストさんとのつながりが深くなってきています。そのご縁からのお客様や、声を掛けて下さるアーティストさんも増えていることを嬉しく思っています。

「これからの運営・展開はどのようにお考えでしょうか」

開設から5年経過しますが、未だ未だ知られていません。市外から来てくださるかたの方が多いです。今回のインタビューでここを知ってもらえたらうれしいです。更に色々な展示をしたいと思っています。是非覗いて見てください。





「岸和田風物百選」

の思い出

岸和田文化事業協会顧問

伊藤 伸史

月日は何事があっても全くおかまいなく、どんどん過ぎ去って行きます。

岸和田市もあと6年で百歳を迎えます。

「岸和田風物百選」は、昭和58年11月1日、岸和田市市制施行60周年記念事業の一つとして出版されたものです。今年で33年になります。岸和田市民でも特に若い人はご覧になったことも、聞いたこともない人が多いのではないかと思います。

先日、岸和田文化事業協会広報部会から原稿を依頼されました。本当は、へたな文章よりも岸和田市立図書館や自泉会館の書棚に並べてありますのでご覧いただければ一目瞭然です。

私はその当時岸和田市の職員で、60周年記念事業にも参加させていただきました。思い出しながら簡単に紹介させていただきます。

まず、事業の目的ですが大体次の通りでした。

- 1、市民参加の手づくりで絵画・作文集をつくる。プロ・アマチュア・男性・女性・年齢は問わない。
- 2、岸和田市内の由緒ある名所・風物等を絵と作文によって記録し、後世に伝える。
- 3、57年4月から準備作業に入って58年の10月中に、印刷製本を完成する。

◆ 作業の進行

- ① まず、57年4月に新聞や広報紙を通じて画題にしたい風物を募集。全部で324点の候補が集まった。
- ② 事務局で重複分を整理。現地調査を実施。
- ③ 6月、17人で構成される岸和田風物百選選定委員会発足。
絵画小委員会9人、作文小委員会8人
- ④ 6月末、作画・作文者の公募開始。
- ⑤ 58年7月、絵画搬入。
270人による407点の作品が集まる。
6日間一般公開を行う。鑑賞者2072人。
- ⑥ 絵画審査結果
油彩 53、日本画 19、染色 10、切り絵 9、
版画 2、南画 1 を決定
審査合格者…小学校3年生から78歳まで
- ⑦ 作文部門審査結果
決定100人…中学2年生から88歳まで

以上で60周年記念事業のひとつである「岸和田風物百選」の出版事業は無事終了しました。大変好評だったと思っております。手づくり、市民参加が成功の大きな力になったと信じております。

◆ 後日談

【その一】

「岸和田風物百選」に使わせていただいた絵は、当然作者個人の所有物でありますので、返却いたしました。後日「市に寄付するから大切に保管し活用してほしい」との申し出もあり、市は寄付としてお受けし、市の備品として台帳に載せて、保管し活用をはかっております。活用については絵は同じ所に長く掲示すると劣化する危険もあり、市の各施設に展示するなど工夫しております。今年の12月に一堂に集めて皆さんにご覧いただきます。乞うご期待!

会 期

1期 平成28年12月 9日(金)～11日(日)

2期 平成28年12月16日(金)～18日(日)

時 間 午前10時～午後5時

【その二】

60周年の年が明けたある日のこと。有名な建築デザイナーの先生の講演会がありました。講師の先生が講演の中で、「今回岸和田市が出版した『岸和田風物百選』を見せてもらった。大変よく出来た本だと思います」と感想を述べられたあと、「本の中に岸和田城を子どもさんがかいた絵がのっています。岸和田のお城は誰が見ても白と黒で

すが、この子どもさんは赤色や青色を使って美しく仕上げられています。お城の形が少々ゆがんでいても気にしていません。なかなか大人にはかけない絵だと思いますヨ〜」

【その三】

印刷製本した「岸和田風物百選」は早く売り切れて、市には残っていません。皆さん保存し、時々見ていただいているのでしょうか。

先日古本屋ではじめて1冊見つけました。古本は安価なものと思っていましたがかなり高い値段がついていました。

【その四】

2～3年前の話になりますが、ある所の高齢者施設から自泉会館に電話がありました。お話によると、入所者の一人の方が「私の絵が岸和田市の本に載っている」とたびたび言われるので、本当かどうか知りたいとのことでした。電話を受けた自泉会館の職員が「本当のことです。自泉会館に保管しています」と答えた。ところが数日たって高齢者施設の職員の方が数人がかりで、車椅子に本人を乗せて自泉会館に来られました。丁度その時、その人の絵を展示していたので、絵と本人を入れて写真をとって渡すと大層喜んで帰られたとのこと…。

高齢者施設の人も親切ですね…。

岸和田 あ・ら・か・る・と

『岸和田弁歳時記』 「おごろ打ち」

理 事 藤田 保平

岸和田もネ。70年ぐらい前は、南海電車の窓から阪和線の電車が見えたんや。まあそのくらい家が少なかったて云うか田ンボだらけやった。

田ンボには畦が付きもん。畦がなかったら水田の水を維持出来へん。

ところがその畦を住みかにしてるおごろ①ちゅうもんがけつかって②、畦の土の中をトンネルだらけにしくさる。なんでそないにトンネルだらけにするのかちゅうと、めめず③を食うためやそうな。

めめずを食うのはええけどトンネルだらけはかなわん。なんでて田アの水が洩れたらどんならん④。稲は水稻て云うくらいや。水がなかったら育たん。

7月8月暑っつい最中は畦に泥を塗って応急の処

置するんやけど、秋の取り入れが済んで11月から冬の間に掛矢⑤で端からドンドン叩いておごろのトンネルをびっしゃいて⑥廻るんちゃ。こんなん一斉にやらなて云うて村中で日を決めて「おごろ打ち」をした村もあったくらいちゃ。米は88回手間がかかるて云うけど、これもその一つかのう。

アッ、そうやそうや、今でもゲームセンターでは「もぐら叩き」てやってるやろワ。

- (注) ① 土竜(もぐら)
② 居る
③ みみず
④ どうもならん
⑤ 杭を打つための木製の槌
⑥ 叩き潰す





Ichigo-Ichien

マミ・フラワーと出会って

平松 妃呂子



マミ・フラワーとの出会いは、主人の東京転勤です。

長年生け花を続けていた私は、マミ・フラワーデザインスクールの総長でもあるマミ・川崎の「欧米の花

のイミテーションではなく日本人の生活にとけこむ花」「日本人の心情にあった花」を求め続ける姿勢に心惹かれ、学ぶことになりました。

以前、五風荘にて生徒作品展をさせていただく機会がありました。テーマは「和で迎えるクリスマス」です。花材に竹や和紙、枝物などを用いることで、日本家屋に溶け込み、マミらしい作品展を行うことが出来ました。

マミ・フラワーの特徴として「花くばり」という手

法があります。植物の枝、葉、根、茎などを花器にしっかりと止めつけることで、花留が見えないようにカバーしなくても、花を立てたり、挿したりすることが出来ます。マミでは「見えて美しい花くばり」と呼んでいます。

昨年12月の文化協会の会員展で生けた花も「花くばり」の手法を用いています。しなやかな木の枝を使ってかごのように編み、その縁の間に花を挿していきましました。オアシスで留めていないため、足元を隠す必要がなく、上から見ると花の茎のラインがよく見えます。

マミ先生の理念でもある「生命ある植物からたくさんのかことを学んでほしい」という教育に少しでも近づけたらと思い、マミ・フラワー岸和田指定教室を自宅を始めました。

教室では生け花と茶道も教えておりますが、日々の暮らしの中に、お花を通じて四季を感じてもらえたらと思っております。また、その中で、いろいろな方と出会えることが私の喜びとなっております。

私事となりますが、今年12月の岸和田文化協会会員展でマミ・フラワーの講習会を行いますので、ぜひ御参加をお待ち致しております。

ひととき

「一時の幸せ」

今西 辰子

石垣島の南、西表島から砂だけで出来た小さな島“由布島”へ浅瀬の海を水牛で渡って行く。

“むさし”と言う名の水牛が引く牛車に揺られながら、御者のおじいの奏でる三線の音色とこちよい風の中でひとときの安らぎを感じた。

“ああ、しあわせ”。
心の中でそうつぶやいた。



Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

「第3回 Re.フレッシュコンサート」～羽ばたこう ふたたび～

平成28年8月19日(金) 午後6時30分開演 演奏をしばらく休止していた方、他の仕事をしながら音楽を学んでこられた方、また子育ても終わり再度音楽の勉強を始められた方によるコンサートです。6人の演奏者と59人の入場者による素敵なコンサートでした。

〈皆さんの声〉

- ◆迫力があってすごかったです。その人の表現で歌っていて、とても良かったです。
- ◆アンコール有りにしたらいかがですか。バリトンの男性は、素晴らしい。音楽の先生ではないのでは？
- ◆選曲が素晴らしいです。心にしました。
- ◆後半は貫禄があり、心にしみる歌を聴かせて頂きました。さすがです。良かったです。
- ◆良い演奏会でした。皆さんとてもステキでした。フレッシュ、ベテラン共に、素晴らしい!!



「蓄音機を使った 昭和初期のレコードコンサート」Vol.11

平成28年9月27日(火) 午後1時30分開演 [午後7時開演の分は、入場者なしのため中止]

昭和初期の蓄音機で、SPレコードを聴きました。入場者は多くありませんでしたが、皆さん心地良く昔を懐かしんでいました。

〈皆さんの声〉

- ◆昔懐かしい曲を聴かせて頂き、ありがとうございました。
- ◆京都文化博物館の旧日銀で8月にコンサートがあったのだが、建物を味わい、往時を偲ぶのが味わい深い。
- ◆現在、年2回であるが、回数を増やしてほしい。

「能」ワークショップ ～能「融」を百倍楽しみませんか!～

平成28年9月30日(金) 午後6時30分開演

10月14日の“岸和田能”秋の名曲を観る会「融」上演にあたり、事前のワークショップとして「融」がどんな内容の曲なのか、お話とお話を聞き、風流の極みの世界を垣間見る機会を設けました。初めての試みでしたが、40名近い方々が参加され、スライドを見たり、解説や謡いを聴いたり、また自ら謡ったり……!!

〈皆さんの声〉

- ◆何も知らずに参加しましたが、わかり易く話して頂き、いい体験ができ、良かったです。当日を楽しみにしています。
- ◆今までより、能が少しは楽しめそうです。わかり易い説明で、楽しかったです。
- ◆スライドが有って、目と耳からとて、とてもよく解りました。実際に能を見る時に、動きに集中できます。
- ◆すてきな謡を聞かせて頂いて、ホントに得した気分です。語り口も、とても暖かく包んで下さったようで、うれしかったです。



「第48回自泉フレッシュコンサート」～秋に思いをはせて～

平成28年10月7日(金) 午後7時開演

新人演奏家2組によるコンサート。入場者数は38名でした。

〈皆さんの声〉

- ◆チェロの「BUNRAKU<文楽>」を聴きましたが、楽器でここまで表現できるのだとびっくりしました。ヴァイオリンとヴィオラ、聴き入ってしまいました。
- ◆題名通りのフレッシュコンサートでした。とても好感が持てました。ピアノの個性的な楽しい曲、力強い選曲が気に入りました。
- ◆これから伸びていかれる若い方の演奏はよいですね。

「岸和田慢歩」を歩く

内畑町～積川神社の秋を楽しみましょう

11月20日(日)

- ◆集合時間：午前10時20分(厳守!) ◆帰着予定時間：午後3時ごろ
- ◆集合場所：南海本線岸和田駅前 牛滝山行バス停前
- ◆費用(実費)：バス乗車賃往復(890円)
傷害保険料(100円ぐらいの予定)
- ◆定員：20名(小雨決行!) ※昼食・水分等は各自持参してください。
- ◆締め切り：11月10日(木) ※電話でお申し込みください。
- ◆申し込み・問合せ：TEL 072-437-3801

平成28年度(平成28年4月～平成29年3月)

会員募集

年会費	個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
(入会費不要)	家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
	(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

岸和田文化事業協会の事業 Information

第49回自泉フレッシュコンサート ～名曲をたずねて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして
歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時:平成28年12月2日(金)午後6時半開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

出演者:長島 加奈(オーボエ)
中道 亜莉紗(ピアノ)
中村 加那美(ピアノ)

入場料:一般前売1,200円(当日200円増)
会員前売1,000円(当日200円増)

第6回自泉ジュニアコンサート JISEN JUNIOR CONCERT

平成29年2月26日(日)午後2時開演(開場30分前)

会 場 岸和田市立自泉会館ホール

出演者 2月4日(土)のオーディションで選ばれた方

入場料 無 料(当日先着100名まで)

出演者を募集します

募集要項

ピアノ・声楽・弦楽器・木管楽器演奏に限る。
(複数名での演奏も可、ただしコーラス等は不可)

対象年齢 小学生～高校生

参加費 2,000円

出演の為のオーディションがあります。

コンサートで演奏する1曲(8分まで)をご用意ください。

オーディションでは、3分程度で演奏を中断していただくことになります。

また、伴奏が必要の方は各自ご用意ください。

【オーディションの日程】

平成29年2月4日(土)午後2時から 学年順により演奏。(演奏順は変更できません)

【申込方法】

氏名・学年・住所・電話・FAX番号・演奏曲目(作曲者名)・演奏時間・演奏楽器名をお書きの上、
11月25日(金)までに参加費を添えて自泉会館へお持ち頂くか、郵送でお申し込みください。
郵送でお申し込みの方は、参加費を下記までお振り込み下さい。
お申込みいただいた方には、12月23日(金)までにオーディションの案内を郵送いたします。

郵便振込 口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会
(振込料は各自負担ください。)

【申込み・問い合わせ】

岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

岸和田文化事業協会会員展

岸和田文化事業協会の会員による
絵画・書道・陶芸・パッチワークなどの作品展です。

日 時:平成28年12月2日(金)～4日(日)

午前10時～午後5時(最終日は午後4時まで)

会 場:岸和田市立自泉会館展示室 **入場無料**

※作品展示申込締切日は11月8日(火)までです。

ワークショップに参加しませんか。

材料費は各自負担となります。(各回10名程度)

	12月2日(金)	12月3日(土)	12月4日(日)
10:00 ～12:00	「消しゴム判子」 講師:藤田保平	「クレパスの技法」 講師:辻井義弘 赤井裕子	「バルーンアート」 講師:加藤くみ子
13:30 ～15:30	「布で作る可愛いうさぎ」 講師:小木曾由希	「ひめオリジナル ティッシュカバー」 講師:若野雅沙世	「アレンジフラワー」 講師:平松妃呂子

あわてんぼうのクリスマスコンサート

日時:平成28年12月3日(土)

第1回 14:00～14:50 第2回 16:30～17:20

会場:岸和田市立自泉会館ホール 出演:スタイングアイドル jazz orchestra **入場無料**

岸和田風物百選展

市制施行60周年記念事業で公募し、
その後岸和田市が寄贈を受けた作品60点を展示いたします。

日 時:第1回 平成28年12月9日(金)～11日(日)

第2回 平成28年12月16日(金)～18日(日)

午前10時～午後5時

会 場:岸和田市立自泉会館展示室

入場料:無 料

野澤松也 創作浄瑠璃 新春弾語りライブ

日 時:平成29年1月27日(金) 午後7時開演

会 場:岸和田市立自泉会館ホール

入場料:一般前売 2,000円(当日500円増)

小学生以下 前売・当日 500円

チケット発売日:会員11月24日(木)・一般12月6日(火)

出演者:野澤松也(歌舞伎義太夫三味線奏者)

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

文化情報

文化の日祝典記念事業「芸術の秋～煌びやかな響演～」

日 時:11月3日(木・祝)午前11時45分開演

場 所:マドカホール(荒木町1丁目)

出 演:伊石 昂平(チェロ)

原 由莉子(ピアノ)

森田 美穂(クラリネット)

入 場 料:無 料(往復はがきで申し込み、または整理券をお求めください。)

定 員:300人(申し込み先着順)

申込方法:①往復はがきでお申し込みください。
はがきに住所、氏名(返信はがきには宛名)、
電話番号、人数(2人まで)を記入し、
マドカホール「文化の日祝典」係まで
②整理券をお求めください。マドカホール・
自泉会館で整理券を配付します。※1人2枚まで

申し込み・問い合わせ:マドカホール「文化の日祝典」係まで
〒596-0004岸和田市荒木町1-17-1
TEL 443-3800 月曜日休館

「ペンギン・インコ陶」 こまつか 苗 個展

日 時:平成28年11月20日(日)～26日(土)

午前10時～午後5時

(最終日のみ午後4時まで。24日は休廊。)

場 所:コペリト(市内別所町2丁目1-1)

入 場 料:無 料

主催・問合せ:コペリト【井出 光地子】

TEL 072-422-2707

nouvelle
Fontaine vol.53

発行:岸和田文化事業協会

◆事務局

〒596-0073

岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員

本郷元子・黒木幸子・小島栄子

黒黒猛夫・藤田保平・堀野和人

編集後記...

この国には、春夏秋冬の四季の他に立春、啓蟄、夏至、処暑等の二十四節気、またその上に七十二候と季節を細かく表現する言葉がある。

丁度、この号が発刊される頃が「霜降」。霜初めて降りる候とされている。

紫式部の実も紫に美しく染まる頃である。

日本ってええなア。

(藤 田)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索